



LAZONA^{ラゾーナ} 藤尾歴史散歩

藤尾学区まちづくり協議会 歴史文化部会



第15回 藤尾発祥の日本の名産・お土産

<その②>

追分から大谷へ饅頭屋が多く、亀谷玉屋が風味京都に劣らなかった。中でも走井の甘露でついた“走井餅”は特に有名であった。創始は江戸中期十代家治の明和元年（1764）というから、今から二百年前でさほど古くはない。刀鍛冶宗近が走井の水で名刀を鍛えたにちなんで、餅の形も両端を尖らせた。大津絵同様の餅を喰えば、道中剣難を免れると宣伝の意味かも知れない。

昭和に続く安政年間（1772-1780）スウェーデン人ツンベルグがオランダ人カピタンに従って江戸に赴いた紀行文に「どんな小さな茶屋にも、いつでも米の粉で作った白か緑の小さな菓子がある。旅人や輿夫は、これを買って茶と共に食べる。茶はいつでも飲めるように、用意されている」とこのあたりのことを述べている。こうした景観は昔の旅の常であるが、異国人の眼には強く映じたものと思う。「走井餅」は長持ちするので珍重された。

『藤尾の歴史』（昭和43年より）



● 走井餅

『走井餅』その形は水しづきの一滴一滴



● 広重画…東海道五十三次のうち「大津 走井餅店」



● 東海道名所絵図より「走井の茶店」

～余話～

この名産、お土産シリーズは、その4まで続きます。その1は第13回で取り上げた大津絵と致します。文は『藤尾の歴史』から転載させて頂きました。書かれたのは橋本武彦、元藤尾小学校長(昭和28年～37年)で地域の人にとっても愛された先生です。宿直の時、旧藤尾小学校(上横木町)にあった二宮金次郎像の横で七輪に網をのせ夕食の魚を焼かれていた姿を懐かしく思い出します。

(歴史文化部会)

バックナンバーご希望は市民センターまで

